

海洋スポーツ研究

第27号

現役シニアトップアスリートの大学期と現在



2022年3月

鹿屋体育大学海洋スポーツセンター

まえがき

【海洋スポーツ研究の発刊について】

鹿屋体育大学・海洋スポーツセンターは、我が国の海洋スポーツの発展に寄与する人材の育成、学術情報の発信を主な目的として活動しています。また、人々を海辺へ誘うきっかけとなる、施設開放事業にも取り組み、海洋スポーツの普及振興に努めています。本報告書の作成も重要な活動の一環であり、本報告書が海洋スポーツの教育・研究に携わっておられる方々との情報交換の材料となることを願って、毎年継続して発刊しています。第26号より鹿屋体育大学学術情報リポジトリへの掲載を開始しました。

【海洋スポーツ研究第27号掲載概要】

第1部には、令和3年度の協力者会議の会議録を掲載しました。テーマは、「現役シニアトップアスリートの大学期と現在」とし、1年間延期となった東京オリンピックへ出場、挑戦した、卒業生アスリート3名からご講演いただきました。講演内容は、会議録に記載されていますので、ぜひご一読ください。彼らが、学生時代にどのような心境でどのように競技に取り組んできたかが語られており、学生選手だけでなく、指導教員や、大学生選手を支える大学のサポート体制にも多くの示唆があった内容となっております。

第2部は、本年度の当センターの活動状況や研究活動の報告です。令和3年度に実施された、授業と各種事業の報告、学生の卒業研究の抄録を掲載しています。

第3部は、寄稿・投稿集です（第24号より掲載開始）。海洋スポーツセンターでの、競技力向上、教育、社会貢献等に係るエビデンスの掲載に積極的に取り組んでおります。なお、海洋スポーツに関する各種情報について、皆様からの情報提供も、お寄せいただけたら幸いです。寄稿・投稿においては、編集委員会を設置しており、寄稿・投稿規定は巻末に掲載されています。

本号には、「ウェアラブルデバイス（スマートウォッチ）のGPSによる測位精度」について掲載いたしました。セーリングやシーカヤックなど、広範囲にわたる航跡データを、安価で誰でも手に入れやすいGPS装置を用いて収集する場合、そのデータが研究用に使用される精度の高い高額なGPSと比較して、どの程度の差があるのかを明らかにしようとしたものです。海洋スポーツの実践現場での有効活用を目的としておりますので、様々なご意見を賜れば、大変ありがたく思います。

第4部は、管理運営資料です（リポジトリへの掲載はありません）。

【結語】

今後も、当センターでは、すべての活動における安全確保を基本とし、海洋スポーツによる社会貢献や教育活動、競技力向上に関する事業に取り組んでまいりますので、ご一読いただき、忌憚ないご意見をいただけると幸いです。

鹿屋体育大学海洋スポーツセンター長

中村 夏実

目 次

まえがき

第1部 令和3年度鹿屋体育大学海洋スポーツセンター協力者会議

研究テーマ：「現役シニアトップアスリートの大学期と現在」

| | |
|---|----|
| 開会の挨拶 松下 雅雄（鹿屋体育大学学長） | 1 |
| センター長挨拶 中村 夏実（海洋スポーツセンター長） | 1 |
| 協力者発表 | |
| 「ただのヨット好きがアスリートとしての人生を歩む道のり」 原田 小夜子 氏（鹿児島県スポーツ協会強化指導員） | 2 |
| 「取り組み姿勢の変化と競技成績の変遷」 大城 海輝（三重県スポーツ協会強化指導員） | 8 |
| 「大学生期のトレーニングのあり方～大学選手指導に求めるもの～」 宮田 悠佑（和歌山県教育センター学びの丘副主査 東京五輪カヌースプリント日本代表） | 13 |
| 質疑応答 | 19 |

第2部 令和3年度鹿屋体育大学における海洋スポーツ関連報告

| | |
|---|----|
| 第1章 授業報告 | 27 |
| 第1節 体育学部 | |
| 第2節 大学院体育学研究科（修士課程） | |
| 第2章 事業報告 | |
| 第1節 重点プロジェクト事業（その他の戦略的プロジェクト） 「海洋スポーツの指導者養成と地域連携事業の拡充」 | 31 |
| 1. 事業概要 | |
| 2. 実施報告 | |
| (1) 大隅青少年自然の家「海からのメッセージ事業」における研究支援 | |
| (2) 一般市民の海洋スポーツへの親和性を促す事業 | |
| (3) 地域連携事業における調査資料等の整理 | |
| 第2節 教育プロジェクト | 33 |
| 1. 海洋スポーツ活動のための指導者育成関連講習会 | |

| | |
|---|----|
| 第3節 研究プロジェクト | 33 |
| 1. 生涯スポーツとしての SUP(スタンドアップパドルボード)運動が 体力に及ぼす影響 | |
| 2. カヌースプリント競技・ボート競技の競技力向上に関するパフォーマンス研究 | |
| 3. セーリング競技における指導者用テキストの作成 | |
| 4. スタッフの研究業績 | |
| 第4節 地域連携・貢献プロジェクト | 36 |
| 鹿屋体育大学公開講座 | |
| (1) 公開講座：楽しいマリンスポーツ | |
| (2) 公開講座：少年少女楽しいマリンスポーツキャンプ | |
| (3) 公開講座：楽しいスキndaイビング（初級者編） | |
| 2. マリンフェスタ in かのや | |
| 3. 鹿屋カップオープンヨットレース | |
| 4. 鹿屋体育大学長杯オープンヨットレース | |
| 第5節 その他 | 40 |
| 1. 海洋スポーツセンター協力者会議 | |
| 2. 令和3年度パワーアップ研修 | |
| 3. 外部団体海洋スポーツ実習および海洋スポーツ体験等の受け入れ | |
| (1) 鹿児島南高等学校体育科野外活動 | |
| (2) 地域小学校ヨット学習 | |
| 4. 海洋スポーツ関連種目における競技力関連支援事業 | |
| (1) 鹿児島県内大学ヨット部による合同練習会 | |
| 5. その他施設利用および協力事業 | |
| (1) あいら子供の家 海洋スポーツ体験 | |
| (2) 国立大隅青少年自然の家 海洋スポーツ体験（海からのメッセージ） | |
| (3) 2021年度470級強化合宿 鹿児島 | |

第3部 海洋スポーツ研究（投稿・寄稿）

<研究資料>

| | |
|---|----|
| ウェアラブルデバイス（スマートウォッチ）のGPSによる測位データの 信頼性の検討 | 44 |
|---|----|

| | |
|----------------------|----|
| 「海洋スポーツ研究」寄稿規定 | 51 |
|----------------------|----|

<卒業研究抄録> 53

第4部 令和3年度海洋スポーツセンターにおける管理運営資料

第1章 令和3年度海洋スポーツセンター運営管理経費 62

1. 予算
2. 支出
3. その他

第2章 令和3年度海洋スポーツセンター利用者数 63

編集後記

編集後記

海洋スポーツセンター協力者会議の会議録、海洋スポーツセンターの関連報告を掲載した「海洋スポーツ研究 第 27 号」が完成致しました。各事業へのご参加にご協力頂きました多くの皆様に心から御礼を申し上げます。

令和 3 年度も、昨年度に続きコロナウイルス感染症拡大予防の観点から、様々なイベントの実施可否について慎重に判断しながら活動してまいりました。少しずつではありますが方法論も模索し、コロナ禍の中で出来る範囲の最大の楽しみを見つけられるようになった気がします。

あるイベントにおいて、風を感じることへのリアル（心地よさや、少しの恐怖心）を新鮮に感じられた受講者の感想が印象に残っています。「海の良さ」は、リアルを感じずに伝承できるものではないと再確認しました。

東京オリンピックやオリンピックに向けた予選会にチャレンジした卒業生の取り組みも協力者会議で細部を知ることができました。競技を継続できている原動力を知ることができ新鮮な気持ちにさせて頂きました。

新年度も気持ち新たにチャレンジしてまいりたいと思います。

発刊にあたり、ご協力頂きました関係各位の皆様方に感謝申し上げるとともに、今後ともご協力賜りますよう何卒よろしくお願い申し上げます。

（榮樂洋光 記）

編集委員会

中村夏実（編集委員長）¹⁾、榮樂洋光¹⁾、坂口陽平¹⁾、吉武裕²⁾、松下雅雄³⁾

¹⁾ 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター ²⁾ 鹿屋体育大学第 9 代海洋スポーツセンター長

³⁾ 鹿屋体育大学学長（第 4 代海洋スポーツセンター長）

* 本報告書についての問い合わせ等がございましたら、下記までお願いいたします。

〒893-0054 鹿児島県鹿屋市高須町 2457 鹿屋体育大学海洋スポーツセンター

TEL : 0994-47-2758 FAX : 0994-47-2756 E-MAIL : kaispo@nifs-k.ac.jp